

秋田県産業動物獣医師の確保に向けた取組

秋田県北部家畜保健衛生所

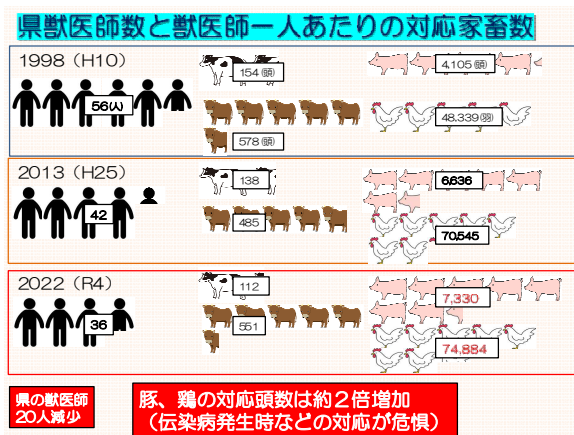
○三橋 洋貴 小川 秀治

【はじめに】

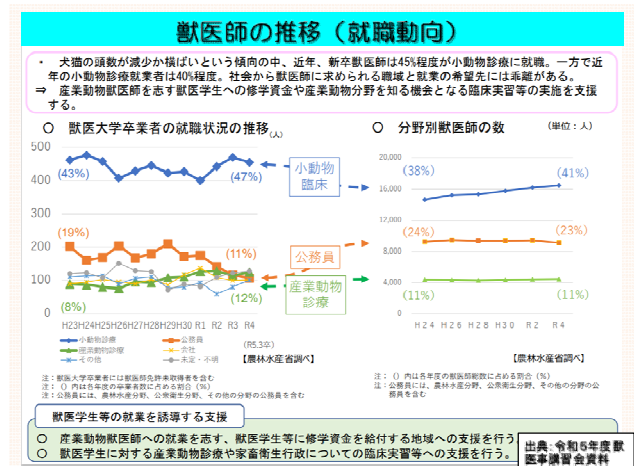
令和5年4月1日現在の秋田県で産業動物に携わる獣医師の在職数は35人であり、獣医療の計画目標人数の37人に対し不足している。産業動物獣医師の役割は拡大しており、現状を鑑みると特定家畜伝染病の発生時の対応に支障をきたすことが懸念されるため、獣医師確保が重要な課題となっている。

県獣医師数と獣医師一人あたりの対応する家畜数の推移は平成10年は56人であったが、令和4年では36人となり産業動物分野で活動する獣医師数の減少が顕著である。職員1人あたりが対応する家畜数は平成10年から比較すると増加傾向にあり、特に鶏、豚の対応数が約2倍と増加している。（図－1）

また、獣医師の就職に関する動向調査によると、新卒者の約4割は小動物診療に就職しているのに対して、公務員への就業は年々減少し現在では1割ほどとなっている。分野別の獣医師数では特に大きな変化がないことから、職域と就業が乖離している状況である。（図－2）



（図－1）県獣医師数と獣医師一人あたりの対応家畜数



（図－2）獣医師の推移（就職動向）

【獣医師確保対策について】

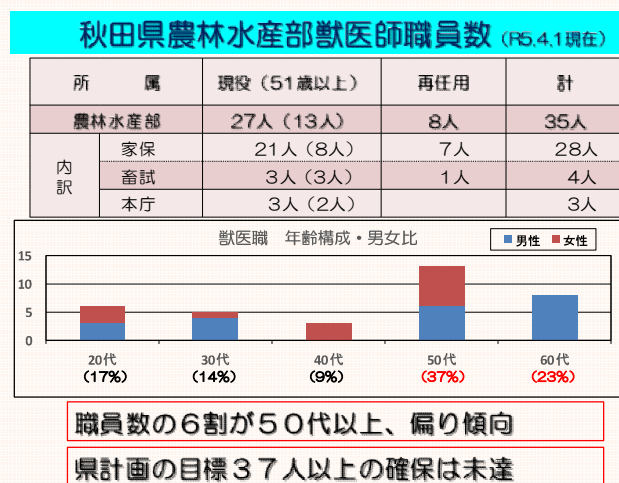
全国の各県における獣医師確保対策の取組として、産業動物獣医師を志望する学生への奨学金の貸与、就業意欲の向上を目的とした対策、広報、PR活動など獣医系大学に対する活動を実施している。その他、既卒者に再就職を促す活動、若手獣医師職員の早期離職防止のために給与面、業務の見直しなど労働環境改善への取組などが多く、獣医師の確保と職員数の維持について他県でも苦慮している状況がみられている。

秋田県においても採用試験受験者数が募集定員に達しておらず、新規採用職員は修学資

金貸与者が受験している状況である。また、職員採用を見合わせた時期があったことで年齢の偏りや職員一人あたりの業務量の増加及び職員の早期退職も重なり、確保対策が十分でない状況である。

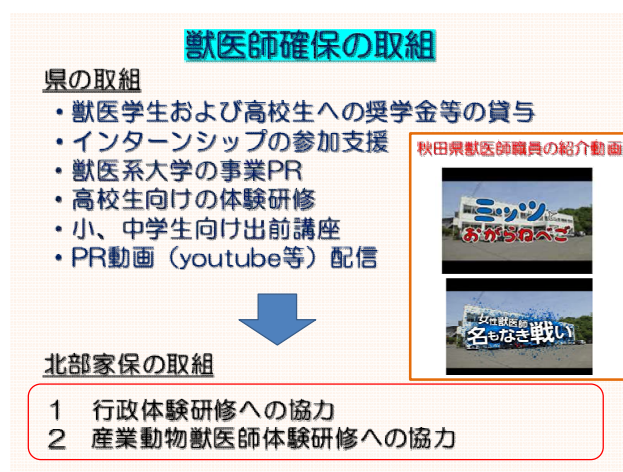
令和5年4月1日現在の秋田県の獣医師職員における所属別、年齢構成、男女比を表1に示した。職員数35人のうち、約6割が50代以上と年齢の偏りがみられ、将来的にみると職員数の維持が困難、深刻な問題となっている。（表－1）

（表－1）秋田県農林水産部獣医師職員数



【獣医師確保の取組について】

秋田県では獣医師確保の取組を継続的に実施し、従来の奨学金貸与や研修生の受入に加えて、近年はPR動画をYouTubeで配信するなどSNSを活用した周知を行っている。北部家畜保健衛生所（以下、北部家保）では中央畜産会が実施する行政体験研修や県が実施する産業動物獣医師体験研修の受入や指導などを行い、獣医師確保の取組に協力している。（図－3）



（図－3）獣医師確保の取組

行政体験研修はこれまで北部家保で11人を受入れ、令和5年度も2人に研修指導を実施した。研修内容は家保が通常行っている業務を中心に家畜伝染病予防事業に係る採材、検査業務および繁殖指導業務について研修指導を実施した。

産業動物獣医師体験研修は獣医学生と獣医師を目指す高校生へ実施した研修であり、これまで獣医学生23人と高校生49人に研修を実施した。特に、高校生に対する研修はNOSA I獣医師とも協力し、産業動物獣医師の魅力や必要性について理解を深める機会となった。令和5年度は研修に参加した獣医学生3人のうち1人は北部家保で研修を実施した。高校生10人のうち2人は北部家保管内の市町村からの参加だった。

獣医学生に対する産業動物獣医師体験研修は県への就労意欲も高いことから、家保の通常業務および家畜伝染病予防事業に係る診断業務を中心に、職員の経験や知識に基づいて、詳細な業務を指導した。行政体験研修も含め、研修に参加した獣医学生からは「現場を見ることで大学で学んだ内容が実際にどのように生かされているのかがわかり、今ある知識の復習と今後何を学ばよいかについて整理ができた点で有意義な研修だった」との前

向きな意見が得られた。

高校生に対する産業動物獣医師体験研修では、普段の業務である検査業務およびNOSAの臨床業務を体験し、産業動物獣医師の仕事内容やその魅力について理解を深めた。直腸検査の体験のほか、鶏の採血デモ、血液の観察、病性鑑定班による説明と体験を実施し、研修の最後には若手職員への質問コーナーを設け、大学での生活や獣医師になるための心意気など高校生が気になっていることについて回答した。高校生の父兄も含め、参加者全員が積極的に研修にのぞむ様子が見られた。

産業動物体験研修に参加した高校生のアンケートでは「獣医師を目指す参考となった」「公務員獣医師のことを理解できた」と前向きな回答が多く、体験研修会は獣医師確保につながる取組として有効であると推察された。（図－4、5、6、7）

北部家保における獣医師確保の取組

1 中央畜産会が主催する行政体験研修への協力 獣医学を専攻する学生を対象に実施、家畜衛生等 公務員分野への就職意欲の醸成

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	合計
全県	3	3	2	2	2	2	4	6	24
北部	1	2	1	1	1	1	2	2	11



北部家保における獣医師確保の取組

2 県が主催する産業動物獣医師体験研修への協力 (獣医学生・高校生)

獣医学を専攻する学生、獣医師を目指す高校生を対象に実施

獣医学生：家保等の実務研修、就業意識の向上と業務の理解の増進を図る
高校生：体験研修による産業動物獣医師の魅力、産業動物獣医師の必要性の理解醸成を図る

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	合計
獣医学生	4	5	2	2(1)	0	2	5	3(1)	23(2)
高校生				9(1)		10(1)	20(5)	10(2)	49(9)

()：北部受入数、県北出身者

(図－4、5) 北部家保における獣医師確保の取組
(行政体験研修、産業動物獣医師体験研修)

産業動物獣医師体験研修（獣医学生）



産業動物獣医師体験研修（高校生）



(図－6、7) 産業動物獣医師体験研修

これらの取組は獣医学生や獣医師志望の高校生を対象とした内容が多いのが現状である。未だ世間的に産業動物獣医師への認識が低いこと、研修機会をさらに求める意見もあったことから、小中学生に獣医師の仕事を紹介し、将来の職業として考えてもらうための取組も必要と考えられた。北部家保では県の取組に加えて大館市教育委員会が主催する子供ハローワークと称した、地域の中학생対象とした職業体験学習に平成30年から継続的に協力している。子供ハローワークは獣医師の仕事や役割について講義および家保で実施

している仕事の体験を行う研修であり、主な内容としては受精卵、精液の形態観察や血液の顕微鏡観察を体験してもらい中学生に獣医師という職業に興味を持たせることができたと思われた。（図－８、９）

北部家保における獣医師確保の取組

3 中学生の体験学習

子供ハローワーク(キャリア・ボランティア)の受入
夏休みを利用した大館市教育委員会が主催する
地域・企業体験学習
北部家保では平成30年から受入先として協力

子どもハローワークによる中学生の体験学習

参加者からは
獣医師に興味があった、仕事を理解できた
もっと研修の機会を増やしてほしい

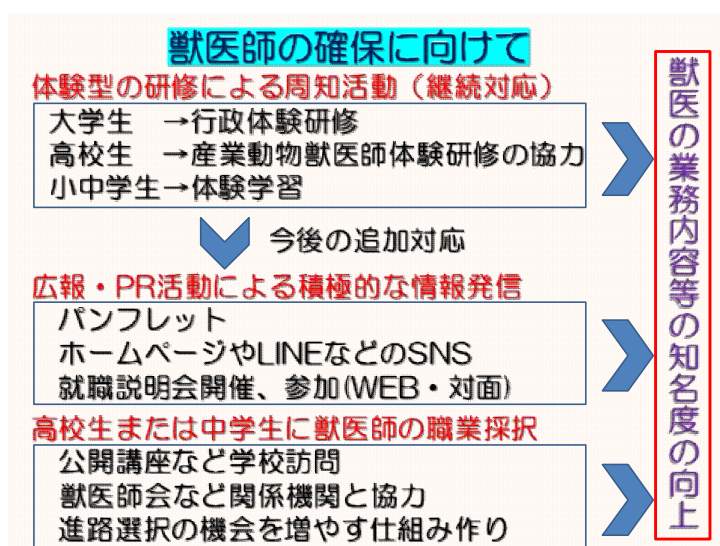
（図－８、９）北部家保における獣医師確保の取組（子どもハローワーク）

【まとめ：獣医師の確保に向けて】

秋田県の産業動物に携わる獣医師は年々、減少傾向であり、獣医師の確保が急務となっている。獣医師の確保にむけて例年実施している体験型研修の機会を設け、幅広い年代に周知していく活動を継続することが重要と考えられた。

今後の追加対応として、広報・PR活動による積極的な情報発信に取り組んでいく必要がある。パンフレットの作成やSNSの利用をはじめ、対面とWEBを活用した就職説明会を頻回行うことで認知度の向上と採用数の増加が見込まれることから、秋田県でもそのような機会を複数回、実施していく必要がある。

獣医学生は大学から研修や情報を得ることが可能であるが、高校生や中学生はそのような機会が少ないのが現状である。獣医師を将来の職業として採択してもらうためには、公開講座による学校訪問等を通じて広く獣医師の魅力を伝え、獣医師会や他機関とも協力しながら進路選択の機会を増やす仕組み作りが必要と考えられる。今後も現在の研修や講習会などの確保対策を継続的に行い、産業動物獣医師の知名度の向上を目的に幅広い年代に獣医師の仕事や魅力を伝え、効果的な獣医師確保対策を推進していきたいと考える。



図－１０ 獣医師の確保に向けて